

# 2023年度事業報告

## 1 児童虐待防止シンポジウム開催事業

「これからの市区町村子ども家庭センターについて考える」をテーマにシンポジウムが開催された。2024年4月施行の改正児童福祉法等のうち、とくに「子ども家庭センター」および「支援計画の策定」を中心に、基調講演および先進的な取組みを既に実施している自治体からの報告が行われた。オンライン・オンデマンドの視聴者は合計約1,150名であり、その多くが自治体関係者であった。終了後のアンケートでは「具体的な取組みがとてわかりやすかった」、「どの自治体も試行錯誤しながら取り組んでいることがわかった」等の感想が寄せられ、参加者の期待に応えることができた。

### ◆ 第34回シンポジウム

- テーマ : 「2024年4月施行『これからの市区町村子ども家庭センターについて考える』」
- 日時・会場 : 2024年2月4日(日) オンライン開催(Zoomウェビナー)
- 参加者 : 視聴参加 約750人、オンデマンド配信視聴 400人
- 内容 : 基調講演、報告および質疑応答、意見交換

## 2 児童虐待防止啓発活動事業

社会全体の子ども虐待防止に対する意識の向上と虐待の予防、早期発見・対応の充実に図るために、行政をはじめ、関係団体、企業等との協力を得ながら、啓発活動及びソーシャルアクションを行った。オレンジリボンの配布活動、支援団体とのイベントの共催、ポスターコンテスト、鎮魂集会の実施、学生によるオレンジリボン運動、ホームページの活用等、子ども虐待防止のためのオレンジリボン運動を幅広く実施した。

### ◆ 春のオレンジリボンキャンペーン

児童福祉週間(5月)を中心に全国の個人サポーターおよび支援企業・団体に対し、ポスター掲出とSNSでのオレンジリボン運動啓発の協力を呼びかけたところ、ポスターを860枚提供することができ、協力が得られた。また、ホームページでも春のオレンジリボンキャンペーンについて掲載し、11月の虐待防止月間のみならず市民の参加意識を高められるよう努めた。

- 実施時期 : 2023年4月～5月
- 内容 : オレンジリボンの着用、ポスター掲出とSNSでの告知の呼びかけ等、広報啓発活動を実施した。

### ◆ オレンジリボンフェスタ(フォーラム)

「子どもと子育てにやさしい社会が虐待のない社会を作る」をコンセプトとして、オレンジリボンフェスタを共催、実施した。

- テーマ : 「オレンジリボンフェスタ in やまがた@ひがしね」こどもどまんなか  
～つながりあうべ ささえあうべ わらいあうべ～
- 日時・会場 : 2023年10月22日(日) 「ひがしねあそびあランド」(山形県東根市)
- 参加者 : 約2,300人
- 内容 : 山形県東根市を拠点とする地元実行委員会との共催により、「こどもどまんなか」をテーマに開催された。キャンドル作りや輪投げなどのブースや、巨大なダンボール迷路のほか、ステージでは合唱やフラダンス、子どもを傷つけない言葉や山形弁のクイズなども行われた。このフェスタを通して、地域の民間団体が連携することで、地域全体で子育て世代を支える意識の向上と虐待予防につなげることができた。



### ◆ オレンジリボンポスターコンテスト

一般市民への啓発を目的に、全国から子ども虐待防止のポスターデザインを募集し、オレンジリボン運動のポスターを作成した。参加団体・企業と共にオレンジリボン運動ポスター約10,000枚を掲出した。

- 実施時期 : 募集…12月～3月、選考4月、表彰式…7月30日 (東京都)
- 内容 : 最優秀賞1名、優秀賞1名、オレンジリボンサポーター賞1名、ユース最優秀賞1名、ユース優秀賞2名、企業賞/団体賞を設定し、美術系の専門学校・大学・高校等を中心に広く応募を呼び掛けた。応募総数787作品(一般部門424点、ユース部門363点)の作品が集まり、各賞が選定され、表彰式を開催した。
- 選考したデザインよりポスター・チラシ等を作成し、関係機関等に配布・活用を通じて虐待防止の啓発につなげた。



<最優秀賞>



<優秀賞>



<オレンジリボンサポーター賞>



<ユース最優秀賞>

◆ グッズ作成・配布

今年度は新規グッズとして、ポスターコンテストの作品をデザインした付箋紙ブックを追加した。組織ぐるみでの啓発活動としては、除菌ウェットティッシュが好評で配布物として広く活用された。また、布リボンバッジも11月の推進月間を中心に着用する取り組みが多くみられた。他のグッズについても一年を通して、オレンジリボン啓発活動に広く活用された。また、啓発ツールとして、チラシ、ポスター、啓発冊子等を作成・配布し、啓発を行った。啓発冊子については、現状に合った情報に改訂し、より充実した内容とした。

＜主なグッズ頒布数推移＞

グッズ	2022年度	2023年度
オレンジリボンバッジ	10,138	14,601
安全ピン型オレンジリボンバッジ	966	1,675
今治ハンカチタオル	1,984	2,151
クリアファイル	2,182	3,520
ボールペン	4,698	3,310
ネックストラップ	2,061	2,358
除菌ウェットティッシュ	4,000	4,333



◆ 全国一斉オレンジリボン街頭配布

児童虐待防止推進月間中に実施するイベントとして、全国各地で支援企業/団体の協力による啓発ツールの配布等、オレンジリボン運動の啓発活動を行った。

- 実施時期 : 2023年11月を中心に実施
- 内容 : 配布対象を全国の不特定の一般の方々とし、マスク25万枚、チラシ10.3万枚を配布するとともに、のぼり旗やポスター1250枚を掲出するなどして、啓発活動を行った。
- 一斉配布協力企業・団体数: 167企業・団体



◆ 虐待で命を落とした子どもの鎮魂集会

子ども虐待によって失われた子どもの命を悼み、子ども虐待防止を啓発することを目的に鎮魂集会を開催した。同時にライブ配信も行い、来場できない全国の方々にも視聴参加していただいた。参加者一同で子どもたちへの追悼の思いを込め、子ども虐待防止について考えを深める場となった。

- 日時・会場 : 2023年11月5日(日) 銀座プロサム中央会館・同時ライブ配信
- 参加者 : 来場者280名、オンライン参加(YouTube Live 視聴回数): 530回
- 内容 : 第21回子どもの虐待死を悼み 命を讃える市民集会

- 第1部: 虐待死した子どもの名前を読み上げ、参加者全員による黙祷
- 第2部: 講演「虐待は大人になって終わりじゃない」 山本昌子さん(ACHAプロジェクト代表)  
ディスカッション: 山本昌子さん、西坂來人さん、ブローハン聡さん(THE THREE FLAGS)
- 第3部: 子ども虐待防止を訴える「鎮魂の行進」



◆ 学生によるオレンジリボン啓発活動

子ども家庭庁や関係機関の協力の下、「学生によるオレンジリボン運動」について、社会福祉士養成校など全国の大学等に呼びかけ、70校の参加登録があった。登録校には啓発ツール一式をサンプルとして提供した。また、オンラインにて報告会(以下に詳細)を開催した。

【報告会】

- 日時・会場 : 2024年2月23日(金・祝) オンライン開催
- 参加者 : 発表校: 4校
- 内容 : 「学生によるオレンジリボン運動」報告会  
報告会にエントリーした10校が発表動画を制作し、その中から4校が代表して制作動画による活動報告を行った。各校からの質疑、応答の時間では活発な意見交換がなされ、お互いの素晴らしい点を讃えあい、さらなる学びに繋げていく若者らしさが存分に感じられる報告会となった。ゲストとして、子ども家庭庁、支援企業の読売新聞社が参加し、コメントをいただいた。



◆ オレンジリボン情報交換会

支援企業・団体を対象に、児童虐待防止に関する情報提供およびオレンジリボン運動に携わる関係者同士の交流を目的とした情報交換会をオンラインにて実施した。

- 日時 : 2023年7月21日(月) オンライン開催、オンデマンド配信
- 参加者 : 支援企業・団体 27名 オンデマンド配信 45名
- 内容 :
  - ・講演: 「SDGsと企業の社会貢献活動について」  
経団連SDGs本部主幹 益子千香氏
  - ・オレンジリボン運動 昨年度の活動報告  
支援団体: NPO法人子どもの育ちを応援する会  
なかべこども家庭支援センター紙風船  
支援企業: トヨタアルパルク東京株式会社
  - ・オレンジリボン運動活動報告 (児童虐待防止全国ネットワーク)
  - ・各グループに分かれ情報交換・交流 (Zoomブレイクセッション)



◆ 市民ミーティング

主に個人サポーターに参加を呼びかけ、市民目線で子ども虐待防止のために私たち一人ひとりに何ができるか、グループディスカッションを行い、参加者同士で意見を交換し、考える場とした。

- 日時 : 2023年9月8日(金)、9日(土) オンライン開催  
2023年12月2日(土) 会場開催: 日本教育会館(東京都千代田区)
- 参加者 : 個人サポーター他 延べ66人
- 内容 :
  - ・オレンジリボン運動の活動内容の紹介や過去の虐待死事件をふまえ、虐待防止の現状や要因、虐待としつけについて、基本的な考え方を参加者に説明した。
  - ・グループに分かれ、「虐待の事件をとおして思うこと」「虐待の事件をとおして自分、私たちにできること」についてディスカッションし、それぞれの想いを言葉にもらった。



3 目的を同じくする団体との連携事業

◆ イベント等共催事業

子ども虐待防止活動を全国に広げるため、各地の支援団体が実施するイベントに対し、企画・広報等の支援および開催費用の一部を負担する共催事業を実施した。全国の支援団体に協力を募り、16団体がイベントを開催した。

- 実施時期 : 2023年度中
- 内容 : 各団体がイベント内でオレンジリボン運動の啓発活動を展開し、一般市民の方々がイベントに参加することで、子ども虐待防止のメッセージを理解する機会となった。

支援団体名	イベント内容
ハーレーサンタCLUB	Xmas トイラン
CFRびわこ	第14回びわ湖一周オレンジリボンたすきリレー
特定非営利活動法人子どもの育ちを応援する会	オレンジリボン運動なすしおぼらサミット2023
一般社団法人ほしかぜ	オレンジリボン×ほしかぜくん橙森のフェスティバル
一般社団法人星槎箱根仙石原総合型スポーツクラブ	星槎箱根フェスティバルへの出展
NPO法人兵庫子ども支援団体	児童虐待のリアル～私たちにできること
演劇集団フリーダム	日韓文化交流フェスティバル「ハッピーバースデー」上演
沖縄の子どもと家族・支援者の未来を明るくする会	オレンジリボンたすきリレー沖縄2023
一般社団法人ANDMAMACO	MAMACOオレンジリボンフェスタ(北区&富谷市)
特定非営利活動法人ぱんだのしっぽ	道の駅でのオレンジリボンキャンペーンイベント
特定非営利活動法人スカイラボサポートセンター	第8回「子育てフェスタ」
一般社団法人ソーシャル・アーティスト・ネットワーク	全国を繋ぐ、列島横断「オレンジリボン・メッセージ」リレー
特定非営利活動法人和歌山子どもの虐待防止協会	オレンジリボン運動2023inわかやま
Ibuki Music Associates	信州オレンジリボンフェス「ファミリア」
交流ぶらすかい	子育てサロン市&ライブinあげお
津市立三重短期大学生生活科学科 田中ゼミ	えんがわマルシェ オレンジリボンをつくろう



◆ オレンジリボンフェスタ地域連携推進事業

子ども虐待防止につながる子育て支援の取り組みを地域社会へ広く発信するため、地域連携の推進を図り、継続的にオレンジリボンフェスタ(フォーラム)を実施していくことを目的とした団体(開催実績を有する)を対象に開催費用の一部を支援する地域連携事業を実施した。

● 実施時期 : 2023年度中

● 内容 : 各団体が地域でネットワークを作って開催し、イベント内でオレンジリボン運動の啓発や子育て支援情報の提供の他、さまざまな楽しいステージやブースを出展し、参加した一般市民の方々に安心して楽しく子育てができるよう、助け合える地域づくりを共有する場となった。

支援団体名	イベント内容
みしま子育てネット	オレンジリボンフェスタ2023inOsaka#こいばらき
オレンジリボンフェスタinあまがさき実行委員会	オレンジリボンフェスタ2023inあまがさき ~出会って、笑って、つながって~
CFRびわこ	オレンジリボンフェスタinしが~みんなおいでよ いっしょに遊ぼう! ~



◆ 日本子ども虐待防止学会(JaSPCAN)との連携

2023年11月25日~26日に開催された「第29回学術集会滋賀大会」で、資料配布用のオレンジリボン不織布バッグを提供し協力した。

【その他】

◆ オレンジリボン認知度調査2023(結果)

2023年8月下旬、1万5千人を対象にインターネットでの予備調査を実施した。ランダムに選んだ500人を対象とする本調査を行い、2段階による子ども虐待防止オレンジリボン運動に関する認知度調査を実施した。

調査の結果(わかったこと)

・「オレンジリボン」が「子ども虐待をなくすことを呼び掛ける運動」であるとその目的や内容を正確に理解している人の割合は、前回調査時(2020)の7.6%から7.0%へとわずかに減少している。このことから、オレンジリボン運動の目的や内容について、より一層の周知が必要であることが明らかとなった。

一方で、「オレンジリボン」について、「運動の目的を知っている」および「マークを見たり、言葉を聞いたりしたことがある程度」とした回答の合計は、前回調査時(2020)と比較して、10.9%から11.6%へと増加した。

世代別で見ると、30代を除くすべての世代で前回調査時と比べ増加しており、特に年齢が若い人の方が高い傾向にあることが示された。

・「オレンジリボン運動」をどこで知ったかについて

「テレビ」(33.2%)、「インターネット広告や記事」(27.6%)、「ポスター・チラシ」(25.2%)、「市区役所等の広報誌」(24.0%)と回答。前回調査時と比較すると、「新聞」「雑誌」「ラジオ」を通じて知った人の割合が、わずかに減少している。

・オレンジリボン運動に期待する取り組みについて、次の点を示された。

一人ひとりでできる具体的な取り組みについての情報発信(58.8%)

子ども虐待防止のための制度や先駆的な取り組みに関する情報発信(50.8%)

子ども虐待防止のための活動する機関や団体へのサポート(39.6%)

児童相談所虐待通告ダイヤル(189)については、80%以上が知らなかったと回答した。

・子ども虐待をなくすために大事なことについて(多い順)

(オレンジリボン認知者の回答)

1.地域での見守り・虐待の早期発見

2.子どもと子育てにやさしい社会づくり

3.困難を抱える親子が安心して相談ができる環境整備

(オレンジリボン非認知者の回答)

1.地域での見守り・虐待の早期発見

2.虐待をした親への厳しい処分

3.子どもと子育てにやさしい社会づくり

詳細については、オレンジリボンHP/調査研究活動をご覧ください。

<https://www.orangeribbon.jp/zenkokunet/research.php>

